



## 日本の中心地「政治・行政」

小樽は古くから海上交通の要衝であったため、北海道のみならず我が国の経済の拠点となり、政治の拠点ともなった。特に日露戦争後、南樺太を領有して以降、樺太やロシアへの玄関口として小樽の重要度は増加した。例えば、日本銀行小樽支店（明治45年（1912）、小樽市指定有形文化財）が4番目の支店として、東京より北では最初に設置されている。

そして、政府主導により早くからインフラストラクチャー（社会基盤）の整備が進められてきた。特に重要であったのが、鉄道と港湾である。

明治13年（1880）、開拓使の運営により、日本で4番目の鉄道となる官営幌内鉄道が開通した。北海道の石炭を国内へ供給することを目的に建設され、幌内の炭田で採掘された石炭が鉄道で運ばれ、手宮の棧橋より積み出された。小樽市総合博物館内の手宮鉄道施設（国指定重要文化財）が、その代表的な遺構である。

港湾は、北前船からの歴史的背景もあり、近代的な港湾の建設が求められてきた。明治29年（1896）、帝国議会は小樽築港を全額国費によるものとして議決した。特筆すべきは、防波堤の建設である。防波堤のない時代、日本海の荒波が乗降や荷卸しを阻害し、また船舶にも被害を与えていた。11年の歳月をかけ明治41年（1900）に北防波堤が完成。引き続き行われた第二期工事は13年を要し、大正10年（1921）に南防波堤など総延長4kmの防波堤が完成した。

text 原 朋教（建築史家、工学博士）

photo 岩浪 睦（写真家）

Copyright © 2015 NPO Otaru Works All Rights reserved.

## 第2号 魁陽亭

---



所在地／小樽市住吉町 4-7  
建築年／明治 29 年（1896）以降  
構 造／木造 2 階建

---

魁陽亭は日本史の舞台に登場する建築であり、当時の小樽が我が国で重要な都市の一つであったことを今に伝える。この料亭は明治初期、長谷川勝平が和洋料理「魁陽亭」を開業したのが始まりで、北海道開拓を進める政治家・経済人などに利用されていた。特に明治 39 年（1906）年 11 月、日本郵船(株)小樽支店で行われた日露国境策定会議の後、2 階大広間で催された祝宴が有名であり、政財界をはじめ多くの著名人が訪れている。

建物は全体をコの字型とする。東側は明治期に建てられ、2 階に大広間「明石の間」を有する。北側は大正期に建てられ、中広間を有する。南側は平家の和室建築で、住宅として使用された。内部の見所は何と言っても「明石の間」で、4 間 × 15 間（1 間は約 1.8m）の大空間では 150 人の大宴会を催すことができる。折り上げの平格天井により豊かな空間が広がり、ガラス張りの広縁からは日本海を望むことができる。

現在／海陽亭

text 原 朋教（建築史家、工学博士）  
photo 岩浪 睦（写真家）

Copyright © 2015 NPO Otaru Works All Rights reserved.

## 第 10 号

### 旧小樽商工会議所

---



所在地／小樽市色内 1 丁目 6-32  
建築年／昭和 8 年（1933）  
構造／鉄筋コンクリート造 3 階建

装飾的な姿が目を引く建築。正面は石川県産の千歳石に彫刻が施され、玄関には土佐産の大理石が用いられている。柱梁の簡明な形態による空間が広がる中で、会頭室の木材による腰壁の仕上げ、階段手摺に組み込まれた金属柵、当時の照明器具など、色内通りの活気を感じさせる箇所が遺されている。設計監督は小樽市建築課に在籍した土肥秀二（1899～1959）が務め、施工は萬伴作が請け負った。

text 原 朋教（建築史家、工学博士）  
photo 岩浪 睦（写真家）

Copyright © 2015 NPO Otaru Works All Rights reserved.

# 第 11 号

## 小樽市庁舎

---



所在地／小樽市花園 2 丁目 12-1  
建築年／昭和 8 年（1933）  
構造／鉄筋コンクリート造 3 階建

---

左右対称の正面、タイルと茨城県産の花崗岩を張ったファサードは役所の持つ厳格さを生み出し、古代ギリシャ建築を模範とした 6 本の柱、玄関ホールの装飾とステンドグラスが華やかさを表す。設計は小樽市建築課課長の成田幸一郎を中心に進められた。総工費 26 万円のうち 10 万円が土肥太吉の寄付によるもの。ここでも戦前小樽の実業家が建築文化を形成した例を見ることができる。

現在／小樽市庁舎本館

text 原 朋教（建築史家、工学博士）  
photo 岩浪 睦（写真家）

Copyright © 2015 NPO Otaru Works All Rights reserved.

## 第 47 号

### 潮見台浄水場管理棟

---



所在地／小樽市潮見台 4-143  
建築年／昭和 2 年（1927）  
構造／鉄筋コンクリート造平家

潮見台浄水場は、市街地から離れた森の中に置かれている。ようやくたどり着くと、赤いトングリ屋根の小ぶりの建物は、可愛らしく親しみを覚える。玄関アーチ上部の小樽市章もこれに一役買っている。雪を表した六光星の中に、小樽の「小」を図案化したもので、明治 34 年の小樽区時代に制定された。しかし一方で、古代ギリシャ建築に由来する三角破風と柱型を備え、公共施設らしい厳格さも併せ持つ。

text 原 朋教（建築史家、工学博士）

photo 岩浪 睦（写真家）

Copyright © 2015 NPO Otaru Works All Rights reserved.

## 第 45 号

### 高島町役場庁舎

---



所在地／小樽市高島 4 丁目 1-1

建築年／昭和 10 年（1935）

構 造／木造 2 階建

---

左右対称の外観とした、いかにも役場らしい建築であり、一方で現在に至る経緯は興味深い。昭和 15 年（1940）に高島町は小樽市と合併したため小樽市役所高島支所となり、昭和 21 年には小樽市立高島診療所となった。昭和 37 年に診療所の閉鎖が決まるが、医師の渡辺太郎氏が私費で建物を購入。平成 21 年（2009）に亡くなるまで 50 年近く続けられた。

text 原 朋教（建築史家、工学博士）

photo 岩浪 睦（写真家）

Copyright © 2015 NPO Otaru Works All Rights reserved.